

## 2015年3月期 第3四半期 決算カンファレンスコールでの主な質疑応答内容

(2015年1月29日実施)

### 【2015年3月期（当期）予想】

Q：産業向けや通信向け部品の見通しはどうか。

A：スマートフォンを中心とする部品の動きは、12月が底で1月から盛り返してくる。産業向け等は明確な季節性はなく、足元も堅調に推移している。特に機械工具事業は好調。

Q：第4四半期に資産の売却等があるとのことだが、どの程度の規模になるのか。

A：第4四半期の資産の見直しによる具体的な影響額は開示できない。「本社部門損益」を前回予想比93億円上方修正しているが、この程度を目安にしてほしい。

### 【2016年3月期（来期）の見通し】

Q：2016年3月期の業績見通しについて。

A：每期2桁の売上成長を目標としている。当期に対して、10%以上は伸ばしていきたいと考えている。

Q：M&Aについて、優先分野はあるか。

A：各部門すべてで検討している。

Q：来期の業績を牽引する事業は何か。

A：当社は様々な事業を行っているため、特定の一つの事業が牽引するということはないが、事業規模の大きい情報機器関連事業、半導体部品関連事業、通信機器関連事業、電子デバイス関連事業等は伸ばさなくてはいけないと考えている。

Q：当期は円安の影響を除くと2014年3月期（前期）比横ばいだが、来期に成長に転じる要因は何か。

A：当期想定通りにっていないのは主にソーラーエネルギー事業。それ以外は各部門で伸ばしている。来期以降も既存事業は2桁増を狙えるものと考えているが、ソーラーエネルギー事業の収益をどのように高めていくかが課題。

### 【ソーラーエネルギー事業】

Q：当期の生産計画 1.4GW に変更があるか。また、当セグメントが第 4 四半期に、第 3 四半期比で増収減益となる理由について教えてほしい。

A：年間計画の 1.4GW の生産は厳しく、前期実績並の 1.2GW 前後になると思われる。第 4 四半期に減益となる理由としては、価格が下がっていることに加え、系統連系接続の問題による生産調整等が要因。

Q：第 4 四半期には売上増による利益増の要因もあると思うが。

A：第 4 四半期は、第 2 四半期に比べると 10～15%程度の生産調整を予定している。この調整とパネルの価格下落の影響が大きい。

Q：資産の減損の可能性はあるのか。また、来期に増収とするための要因は何か。

A：減損は考えていない。太陽電池パネルの値段が下がっているので、蓄電池等のシステムと組み合わせて売上拡大を図る。系統連系問題のない地域での売上拡大や、住宅用への注力、海外での事業拡大等を図る。

Q：来期の事業の規模感はどの程度と見ているか。

A：規模感としては、当期並の 1.2GW に少し届かない程度だと試算している。大きく減少することはないものと考えている。

### 【通信機器関連事業】

Q：第 3 四半期の売上は想定内だが、利益は想定以上に落ちている。この要因は何か。

A：第 3 四半期は、雪の影響により、部材の到着及び出荷の遅れが生じた。この遅れは第 4 四半期でカバーできると考えている。

Q：雪による影響額はどの程度か。

A：第 3 四半期は第 2 四半期程度の利益水準を維持したかったが、実績は雪の影響も含め損失となった。

【電子デバイス関連事業】

Q：第3四半期は第2四半期に比べ、売上の伸び以上に利益が伸びているが、その要因は何か。また、第4四半期の景況感を教えてほしい。

A：過去2年程度かけて民生用タッチパネルといった不採算部門を縮小してきたことが要因の一つ。また、コンデンサ、水晶部品等では新製品を投入しており、シェアが上がっている。新製品は利幅が高いこともあり、利益率が上がっている。足元の部品の受注状況は、12月が底で、1月から上がってくるという流れが通常だが、当期もその動きになっている。

【資本政策】

Q：豊富な金融資産を株主価値向上にどのように活用する考えか。

A：基本的には収益を上げるための投資に活用する。既存事業への設備投資やM&Aに使いたい。

Q：株主還元を使う計画はないか。

A：投資やM&Aにより利益を上げ、結果として還元したいと考えている。

Q：中期的なROEターゲットは。

A：現時点では特に設定していない。

以上